



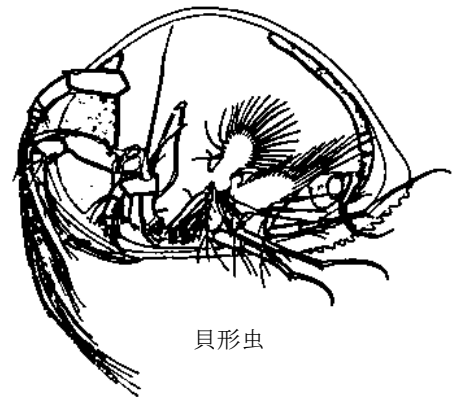
# 化石館だより

## コラム

### 貝形虫という小さな生物の化石

淡水にも海水にも、貝形虫（貝虫）という大きさが1 mm程度の小さな生物がたくさん棲んでいます。エビのような体を、左右二枚の殻で被っている姿は、なんとなく二枚貝に似ています。そこで、貝形虫のことを「介」という字を用いて「介形虫」と書く場合があります。これは、「貝」という字から巻貝がイメージされることを避け、二枚貝に似た形であることをより鮮明にするためだと思います。

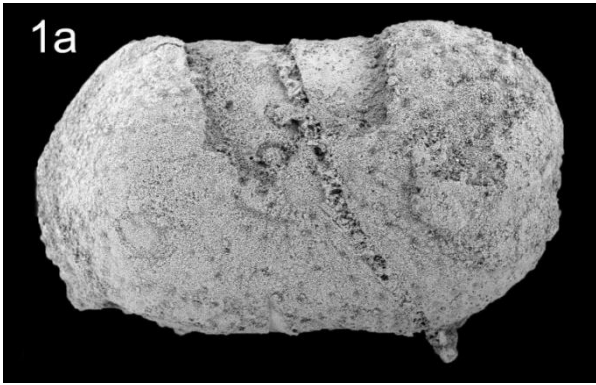
貝形虫は甲殻類に属する生物で、ミジンコのように付属肢を前後させながら水を掻いて泳ぎます。泳ぐと言っても水中を自由に遊泳するのではなく、水底を這い回ったり、泥底に潜ったりして生活する種類がほとんどです。貝形虫は移動能力に乏しく、淡水から浅海、深海まで多様な種が生活していますので、この化石は古い時代の環境や地理などを推定する研究に利用されています。また、貝形虫化石は、油田調査における重要な資料であるとして研究されてきました。



貝形虫

貝形虫は、私たちに馴染みのない生物ですが、身近な川や水田の中にたくさん棲んでいます。水田を覗きこむと、泥の上を活発に動き回っている小さな生物を見かけることがあります。これは貝形虫類であることが多いのです。現生の貝形虫の中では、波間で光るウミホタルが比較的良く知られていると思われます。これは、海に棲む大型の貝形虫（約3 mm）で、体から発光物質を分泌して海面を青色に染めます。発光する生物は他にもたくさんいて、その中に「夜光虫」という生物がありますが、これは赤潮を形成する植物性鞭毛虫で貝形虫ではありません。

貝形虫は、古生代のカンブリア紀（5.5億年前）から出現しています。貝形虫には雌雄があることが知られていますが、化石で雄雌をはっきり識別できる生物としては最も古いものだとされています。日本では、岐阜県の福地（高山市）で発見されたパラエオレペルディシア (*Paraeoleperditia fukujiensis*) という貝形虫がオルドビス紀（4.5億年前）のものだとされています。これは日本で最も古い時代の化石であるとともに、日本にオルドビス紀の地層が存在しているという証拠にもなりました。



ギフアパチテス

古生代ペルム紀（2.6 億年前）に堆積した赤坂石灰岩からも貝形虫の化石が見つっています。フズリナなどの化石に交じって、石灰岩の表面にも点々とその殻が見つかりますが、石灰岩の隙間にある石灰泥を洗浄すると、洗浄後の砂礫から単体の貝形虫化石をたくさん見つけることができます。赤坂石灰岩からは、田中源吾（2013）によって9種の貝形虫が報告されましたが、そのどれもが新種でした。しかも体長2mm程もある大型の1種 ギフアパチテス（*Gifuaparchites takagi*）は世界にも報告例がなく、イケヤパルチ科

（*Ikeyaparchitidae*）という新しい科が設けられ、その新属新種となりました。底生生活をする貝形虫は移動能力に乏しく、それぞれの地域で固有種となることが多い生物です。赤坂石灰岩が堆積した当時は大洋上にあるサンゴ礁の島でしたから、固有種が生まれやすい環境であったと考えられます。金生山では、石灰泥から洗い出す方法により、今後も引き続き新たな種の発見が期待できそうです。

（文責：高木洋一）

\*\*\*\*\*

## お知らせ

後期企画展

### 「貝殻の魅力」

～ 不思議な形と美しい色彩 ～



大垣市が所蔵する岩田稔コレクションの中から、特徴のある形と色彩に着目して選出した海産の貝標本を紹介します。貝殻の利用や生態的な特徴など、貝殻に付随した情報も交えて興味深く見ていただけるよう工夫しています。親子連れでも楽しめるよう、微小貝を多く含む海砂から小さな美しい貝殻を拾い出す体験コーナーも併設します。

期 間： 10月7日（土）～1月31日（水）

入館料： 一般100円 高校生以下無料

閉 館： 火曜日・祝日の翌日 年末年始



問い合わせ： 大垣市金生山化石館 電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)

Email [kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp)